

### 1 はじめに

本校では、研究テーマを『自他の違いやよさに気づき、人とのかかわりを大切にする子どもの育成』～認め合い・学び合い・伝え合う活動を通して～と設定し、人間関係づくり班，学習づくり班，環境づくり班を組織して研究を進めている。その中でも人間関係づくり班においては，協力・参加体験的な活動の中で，「認め合う」場の設定を工夫し，自己肯定感を高め，よりよい人間関係を築こうとする態度や実践力を育むことを研究内容としている。特に，全学年の学級活動に「ソーシャルスキルトレーニング（SST）」を位置付け，望ましい人間関係づくりに取り組んでいる。

### 2 本実践でのねらい

本学級（6年生）では，年度当初からSSTを取り入れた学級経営を行ってきた。取組を継続することで，落ち着いた学級集団になりつつあるものの，対人関係や自己表現に課題を抱える子どももいるため，個人及び学級集団のスキルを高める手立ての必要性を感じている。

「望ましい学級集団」とは，子ども一人一人の居場所があって，居心地がよいと感じられる集団であり，ルールとリレーションが高い段階でバランスよく存在している集団であると考え。その集団づくりを目指して，SSTを取り入れながら実践していく日々であり，少しずつではあるが，よりよい人間関係や居心地のよい学級，望ましい集団形成が育まれているのを感じている。

その育みを次年度からの中学校生活，更には社会に出てからもよりよい人間関係を築けるような発展性のあるものに広げていきたいと考える。

### 3 SSTを中心とした日々の実践の中で

#### (1) SSTを取り入れた他教科等との関連（テーマ「こんな時どうする？」）

月	学級活動 (SSTの場)	道徳 (態度を育む学習)	総合的な学習の時間 (体験を通して実践する場)	その他
4	NGワード	—	<b>【年間を通して】</b> ○ ボランティア活動，緑化活動，募金活動 ・ 助け合い，支え合いながら生活していくためにできることを実践する。 ○ 特別支援学校との交流 ・ 特別支援学校の子どもたちとの交流を通して，思いやりの心を育む。	<b>【年間を通して】</b> ・ 毎月11日は校内人権の日 ※学校全体の取組  <b>【人権コーナー】</b> ・ 友達を知ろう ・ 力を合わせて
6	リアクションの達人	—		
9	怒りの発散法 協力の敵は？	いじめられて		
10	気持ちのよい頼み方と断り方	—		
11	—	差別を許さない心		
12	NGワード	言葉の力，わたしの思い，人権について（人権週間）		
1	トラブルの解決策	人の真心		

## 【人権コーナー】



全学級で、人権に関する詩と児童の感想を掲示している。

### ＜児童の感想から＞

- ・ 人は優しい言葉を言われると、心が温かくなります。だから、人の心を温かくする気持ちで話をしたいです。
- ・ 人を差別したりするのではなく、その人の良いところを見つけられるようになりたいと思いました。

## 【皆与志養護学校との交流（6年生）】



### ＜交流後の感想から＞

車いすに乗っている女の子と、風船バレーで交流しました。その子は上手に車いすを動かして、どんなボールでもアタックしてきました。すごいなと思いました。

養護学校のお友達は体が不自由だったり、言いたいことが上手に言えなかったりするけれど、とても前向きで一生懸命に取り組みます。何でも一生懸命に取り組む事は大切だな、そんな姿はカッコいいなと思いました。

また、一緒に活動する中で、相手のことを思う優しさが大切だなと思いました。

## (2) 本学級での実践

本学級では、本年度、朝の会、学級活動、道徳や各教科の時間において、S S Tの手法等を取り入れた活動を展開してきた。

友達を知ろう	自己紹介ゲーム，何でもバスケット
よいところさがし	友達のよいところを付箋に書いて貼る。
ありがとうカード	週に1度「ありがとうの日」を設け，友達へのありがとうを付箋に書き出す。
仲間〇×ゲーム	一人一人についてのクイズを出す。
力を合わせて	グループ対抗ゲーム，お題ゲーム，ジェスチャーゲーム
怒りの発散法	どう解消してる？
協力の敵は？	目指せ最強のリーダー
NGワード	嫌な気持ちのサインは，話題と話し方
トラブル解決策	解決策がいっぱい，みんなで出し合う



【よいところ探し】



【ありがとうコーナー】

[参考図書：ソーシャルスキル教育で子どもが変わる 小学校 (図書文化社)]

## (3) 授業参観及びP T A等での取組

S S Tの取組を保護者へ理解してもらい、家庭と連携しながらスキルを高めていくことを目指し、次のように取り組んだ。

ア P T Aの時に、保護者同士のコミュニケーションゲームを実施した。

イ 授業参観の学級活動でS S Tを実施し、心ほぐしゲームに保護者にも参加してもらった。

ウ 週報等で、S S Tの学習を知らせ、家庭でも見守ってもらうよう促した。

エ 個々の対応が必要な児童に関しては、保護者との緊密な連絡を行うとともに、教育相談も繰り返し実施した。

(4) 支援が必要な児童について

本学級は、年度当初、自己肯定感が低く、よりよい人間関係を築くことの苦手な児童がたくさんいた。そこで、SSTを導入し、学級集団としてのスキルを高めるとともに、個々のスキルも高めていくことを目標に、継続して取り組んでいる。その中でも、Aさんについては、特に支援が必要と感じ、昨年度から指導を続けている。

Aさんは、友達に自分のことを何か言われていると思い込むと、気持ちを抑えられず、友達と言い争いになったり、衝動的に友達を叩いたり、教室から飛び出したり、友達を追いかけ回したりするなどの行動が見られた。

まず、思いを受け止め、何が嫌なのか全部話を聞くようにした。そして、Aさんへの対応として、自分自身の行動を振り返らせ、課題と向き合えるよう常に話をした。加えて、SST等で友達と楽しく過ごす時間も多くとった。

Aさんは、特にBさんとのトラブルが多かった。Bさんが近くを通るだけで、自分のことを何か言っている、馬鹿にしていると思い込んで叩くことなどがあつた。Bさんは、何に関しても状況を理解して注意を促す子であり、そのことがAさんにとっては、しつこく言われているように感じていた。Aさんは、前学年時から、Bさんに嫌なことを言われたり、されたりすることが続き、そのことから、衝動的な行動をとってしまっているところもあつた。

そこで、Bさんに対しても、気を付けなければならない言動などを指導するとともに、Aさんへの接し方等について一緒に考えるようにした。

さらに、周囲の子どもたちには、Aさんの心の中の思いを伝え、Aさんが安心して楽しく過ごせるよう、Aさんのことを理解し、みんなで考え、支えていこうと投げかけた。

4 学習の中で（学級活動：SST実践例）

(1) 題材名 こんな時どうする？ ～気持ちのよい頼み方・断り方～

(2) ねらい

ア 気持ちのよい頼み方と断り方があることに気付くことができる。

イ リハーサルを通して、自己を振り返り、生活で生かそうとする意欲をもつことができる。

(3) 本時の実際

過程	学 習 活 動	時間	教師の働きかけ【※評価】
ほ ぐ す	1 ウォーミングアップをする。 「何でもベスト3！ミニゲーム」	7	1 心ほぐしのゲームを行い、ソーシャルスキルプログラムへの準備をする。自己理解や他者理解につなげる。
つ か む  (1)(2)(3)(4)(5)(6)	2 学習のねらいをつかむ。 3 学習のめあてを確かめる。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;">気持ちのよい頼み方・断り方を考えてみよう。</div>	3	2 学習の手順を示し、見通しをもたせる。 3 アンケートの結果を提示し、友達関係づくりの大事なポイントの一つであることを押さえる。

(モデリング) 気づく	<p>4 次の場面で、友達からの頼み事を断れないでいる理由や気持ちを考える。</p> <p>(1) Yさんの心の中を考えてワークシートに書き出す。</p> <p>(2) <b>気持ちのよい断り方のコツ</b>について確かめる。 【ステップ1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ あやまる。「ごめんね。」</li> <li>・ 理由を言う。</li> <li>・ 自分にできることを言う。</li> </ul> <p>(3) <b>気持ちのよい頼み方のコツ</b>について確かめる。 【ステップ2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 命令ではなくお願いする。</li> <li>・ 理由をはっきり言う。</li> <li>・ ちゃんと返事を聞く。</li> <li>・ しつこく言わない。</li> </ul>	13	<p>4 次の場面で、友達からの頼み事を断れないでいる理由や気持ちを考えさせる。</p> <p>(1) 子どもたちの日常によくある場面を想定し、断れない理由や気持ちを考えさせる。【※観察，発表，ワークシート】</p> <p>(2) 教師がパターンをモデルで示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どうすることがよいか考えさせる。</li> <li>・ アンケート結果とつなげて、断り方のコツについて考えさせる。</li> </ul> <p>(3) 頼み方にも問題はないか考えさせる。 【※観察，発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 断り方や頼み方のスキルを提示し、いつでも見ることができるようにする。</li> </ul>
(リハーサル) やつてみる	<p>5 気持ちのよい頼み方と断り方を確認し、実際にやってみる。【ステップ3】</p> <p>(1) 断り方について確かめ、練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 断り方のコツに沿って、交互に練習する。</li> <li>・ ワークシートにチェックする。</li> </ul> <p>(2) 頼み方について確かめ、練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 頼み方のコツに沿って、交互に練習する。</li> </ul>	14	<p>5 気持ちのよい頼み方と断り方を確認する。</p> <p>(1) 担任と児童で、模範演技を見せる。</p> <p>(2) グループの中で、二人組を作らせ、役割を交互に練習させる。</p> <p>(3) 特に支援が必要な児童については、個別に声かけを行う。 【※観察】</p> <p>(4) 机間支援しながら、子どもたちの活動の様子を称賛する。 【※観察】</p> <p>(5) 断られた時に好ましい対応している子どもの言葉を取り上げ、称賛する。 【※観察】</p>
(フイードバック) 振り返る	<p>6 活動を振り返る。</p> <p>(1) ふり返りカードに記入する。</p> <p>(2) 感想を発表する。</p>	6	<p>6 活動を振り返らせる。</p> <p>(1) ふり返りカードへ記入させる。</p> <p>(2) 感想を発表させ、次の活動への意欲をもたせる。【※発表，ふり返りカード】</p>
(定着化) 生かす	<p>7 チャレンジカードの取組を知る。</p>	2	<p>7 チャレンジカードに取り組むことを知らせる。</p>



【ほぐす：ミニゲーム】



【モデリング】



【リハーサル中】

#### (4) 「ふり返りカード」の感想から

ア 頼むとき、私は相手の返事を聞いていなかったの、これからは相手の返事を聞きたいと思いました。また、断る時に理由などを言ってなかったので、理由を言った方がどちらもイヤな気持ちにならなくていいと思いました。これからも生かしていきたいです。

イ 今までは、ちょっと押しつけてしまったり、「ごめん、ムリ。」や「ムリ。」という断り方をしてしまったりしたことがありました。今日の学習を生かして、きちんと頼んだり、気持ちのよい断り方をしたりしたいです。

ウ これまでの自分は、頼むときにあまり相手のことを意識していなかったの、これからは頼むときに相手のことも考えて頼みたいです。

### 5 実践を通して（児童の変容から）

#### (1) 支援の必要な児童について

昨年度から継続的に指導を続けているAさんは、衝動的に行動してしまう場面がほとんど見られなくなり、落ち着きが見られるようになってきた。表情が柔らかくなり、状況を理解し、落ち着いて友達との受け答えができるようになってきた。自分に自信がつき、学習にも集中できるようになっている。気持ちの面でのもやもやが解消され、自分に少し自信をもつことで前向きに考えることができ、学習にも集中できるようになるということを実感しているようだ。

「気持ちのよい断り方・頼み方」のチャレンジ実践後の感想にも、「自分で人にたのむとき、命令調でなくなった。もっともっと上手になりたい。」と前向きな思いが書かれていた。

Bさんも自分自身のことを振り返り、Aさんとの接し方を考えるようになった。「Aさんとどのように接したらいいか、この1年で分かった」というつぶやきも聞こえた。

#### (2) 全体を通して

これまでSSTを取り入れた学級経営を計画的に行ってきた。年度当初に比べると、学級全体が明るく温かい雰囲気になってきている。友達のことを考えて行動する場面が増え、自分に自信をもって生活できる児童も増えている。自分が受け入れられているという思いが、自信につながっているようだ。自己肯定感を高めていくことの大切さが分かった。

今後もSSTを取り入れた学級経営を継続し、子どもたちが自分に自信をもち、自己肯定感を高め、助け合い支え合い、居心地がよいと思うような学級を目指していきたい。

6 参考資料 <ワークシート（表）>

**こんな時どうする？**

～気持ちのよい頼み方・断り方～

チャレンジャー 年 組（ ）

次の場面についてY君はなぜ断れないでいるのか考えて、心の中を書こう。

場面	状況（じょうきょう）	断りたいけれど断れない気持ちや理由	Yさんの心の中
委員会・係事件	Yさんは、友達のUさんに、急に自分の委員会の仕事をしてくれるように頼まれました。実は、Yさんは、他に自分の仕事をしなければならなかったのです。本当は断りたいのですが、断る言葉をなかなか言えません。	断りたいけれど断れない気持ちや理由 →	

**【ステップ1】** 気持ちのよい断り方



気持ちのよい断り方のコツ	
・	☆
・	☆
・	☆

**【ステップ2】** 気持ちのよい頼み方



気持ちのよい頼み方のコツ	
・	☆
・	☆
・	☆
・	☆

**【ステップ3】**

2人組で場面を設定し、気持ちのよい頼み方や断り方を練習してみよう。

（ペアの名前） \_\_\_\_\_

※交互に【頼む役】【断る役】をして、練習をしよう。

<ワークシート（裏）>

【振り返り・感想】

（１）今日学習した気持ちのよい頼み方・断り方を，これからの生活に生かしたいですか。

どんどん生かしたい　生かしたい　あまり生かしたくない　全然生かしたくない

（２）気持ちのよい頼み方・断り方を学習したことは，友達と仲よくしていくことに役立つと思いますか。

とても役に立つ　役に立つ　あまり役に立たない　全然役に立たない

（３）これまでの自分の生活をふり返って，気持ちのよい頼み方・断り方を意識して頑張ろうと思うことや今日の学習の感想を教えてね。



※ 感想がうまく書けない人は，次の書き方を参考に書いてみてね。

これまでの自分は〇〇だったけど，  
これからは，・・・・・・・・

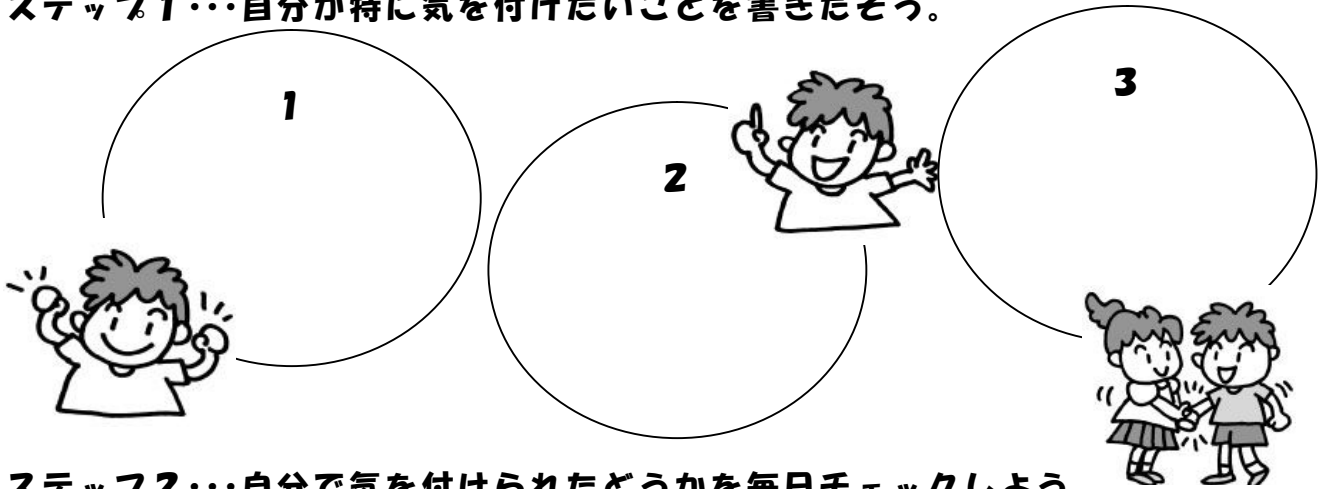




【チャレンジカード】

# 気持ちのよい頼み方・断り方チャレンジカード

月 日から 月 日 チャレンジャー ( )  
ステップ1…自分が特に気を付けたいことを書きだそう。



ステップ2…自分で気を付けられたどうかを毎日チェックしよう。

- ・気持ちのよい頼み方、断り方ができたハッピーな人は、😊に色をぬろう。
- ・どんなふうに頼んだり、断ったりできたか簡単に言葉で書いておこう。

ステップ3 1週間たったら、チャレンジをふり返りましょう。

月 日	曜日	どんなふうに頼んだり、断ったりできたかな	ハッピー
			1 😊 2 😊 3 😊
			1 😊 2 😊 3 😊
			1 😊 2 😊 3 😊
			1 😊 2 😊 3 😊
			1 😊 2 😊 3 😊

【感想】



これからがんばりたいこと



## 1 はじめに

### (1) 本校の子どもの実態

本校では、「みんなやれる！伸びる！ひまわりの学校」のキャッチフレーズの下、子どもたちの自尊心を育み、やればできるという自信をもった心豊かな子どもの育成に努めている。

子どもたちは、元気で明るく素直な子どもが多く、何事にも一生懸命取り組もうとしており、学校生活のあらゆる場面で、自分の力を発揮しようと努力する姿が見られる。その一方で、友達を傷つける言動をとってしまったたり、逆に、そのことに対して、嫌だという気持ちを相手に伝えられなかったりする子どももいる。本校は、各学年1クラスであるため、人間関係が固定化してしまう傾向がある。また、人間関係の希薄さから、子どもたち同士が十分なつながりをもちきれていないのが現状である。

### (2) 本校の人権学習の課題

本校では、これまで「人権作文発表会」や「部落問題学習」など様々な人権学習を行ってきた。しかし、それらの取組は、その場、その時間だけの活動で終わることが多く、十分な効果を上げることができていなかった。本校の人権学習には、取組を意図的につなぎ、年間を通して子どもたちを育むという視点が欠けていたように思う。取組を関連付け、学んだことが授業、集会活動等の中で相互に生きる人権学習を毎年積み重ねてこそ、子どもたちの人権意識は高まり、実践行動へと結び付いていくと考える。

## 2 本実践のねらい

本実践は、「人権教育の指導方法等の在り方について [第3次とりまとめ]」を参考にし、これまでの人権学習を見直し、本校の実態に合わせた形での再構成を通して、子どもたちの人権意識を高め、自他の人権を守ろうとする実践力を育むことをねらいとしている。ここでの実践力を具体的に次のように定義した。

- ① 自分自身の尊さ・大切さに気付く力
- ② 集団の一員としての実感を持ち、仲間と助け合い、仲間を思いやる態度
- ③ 他者の立場に立って、その人の考えや気持ちなどが分かる想像力や共感的理解力
- ④ 他者と考えや気持ちを伝え合い、分かり合うためのコミュニケーションの能力・技能

これらの能力・技能をバランスよく育むために、「知的理解を深める学習づくり」、「人権感覚を育む学習づくり」、それらの学習の基盤となる「環境づくり」という視点で取組を進めた。

### 3 実践の内容

#### (1) 知的理解を深める学習づくり

子どもたちの実践力を育む上で、まず、人権や人権擁護に関する基本的な知識を確実に学び、その内容と意義についての知的理解を徹底し、深化することが必要となる。この知的認識と人権感覚が結び付いたとき、自他の人権を守ろうとする具体的な行動が自然と表れると考える。

#### ア 人権週間の取組

本校では、学期に1度ずつ人権週間を設けており、子どもたちの発達の段階に応じた人権学習（授業）を行っている。特に2学期・3学期の授業については子どもたちの知的理解を深めることをねらいとしている。授業では、単に知識の教え込みにならないよう、調べ学習や話し合い活動を取り入れながら子どもたちが主体的にそして、協力し合うような形で学習に取り組めるよう工夫している。また、授業で取り扱う内容については、1年間の学習のつながりと小学校6年間の学習の積み重ねを意識して設定し、授業計画を1年ごとに見直すこととした。

#### 【人権週間の授業計画】

学年	重点目標	1 学期	2 学期	3 学期
	学年部ごとに人権同和教育の重点目標を設定している。	学級・学校の仲間づくりをねらいとした人権学習	様々な人権課題を理解する人権学習	自身を振り返ると共に喫緊の人権課題について学ぶ人権学習
1 年生	身のまわりの問題に気づき、互いに励まし合い、仲間と共によりよい集団を目指す意欲を育てる。	○ひまわり集会 〔・縦割り班での活動〕	学級中での人権問題	○人権作文発表会 〔・各学年の代表が人権作文を発表〕
2 年生			人権教育教材「ひらく」を用いた授業	
3 年生	身近な人権課題について、偏見や差別に気づき、それを仲間とともになくそうとする意欲を育てる。	○「仲間づくり」を目的とした授業 〔・各担任による授業〕	障がいについての理解	インターネットによる人権侵害について
4 年生			参加型学習 ↓ 男らしさ・女らしさ ジェンダーについて	

5年生	様々な人権課題について、その差別の歴史や仕組み、差別する心理について自分の生活と結び付けながら学習し、差別をなくそうとする意欲と実践力を育成する。	参加型学習 アイスブレイキング  アクティビティ  シェアリング	ハンセン病患者・元患者の人権について	※ 3学期の授業は、社会情勢を鑑み、特に学習の必要な人権課題を選択して授業をする。
6年生			北朝鮮当局による拉致問題等に関する理解	

## イ 6年社会科の取組

6年生の社会科には、同和問題をはじめとして人権について知的理解を深める内容が多く含まれている。しかし、そこに時間をかけすぎると、社会科の時数を超過してしまう。そこで、本校では、指導計画を工夫し、学級活動や総合的な学習の時間の学習内容とリンクさせ、同和問題をはじめとする様々な人権課題について深く学べるようにしている。以下に示す単元は、同和問題に関連した学習内容である。

- ・ 徳川家光と江戸幕府（身分制度）
- ・ 二つの戦争と日本・アジア（水平社宣言）
- ・ 憲法とわたしたちの暮らし（基本的人権の尊重）

ここでは、水平社宣言を基に、子どもたちが自分自身の生き方を問い直す学習を行った小単元の指導計画を例として示す。

### 【小単元の指導計画】

全9時間 社会科：「二つの戦争と日本・アジア」

（学級活動の時間と連携した総合単元的な取組）

過程	時	主な学習活動	指導上の留意点 （◎：人権同和教育の視点）
つかむ 見通す	1	<b>豊かになった人々の暮らし</b> 単元全体の学習問題を設定する。 なぜ、人々の暮らしはここまで豊かになったのだろうか。	○ 明治初期と比較し、暮らしが豊かになった理由を予想させる。 ○ 暮らしが豊かになったことで、起こる問題はないか考えさせる。
		2	○ 二つの戦争の原因や歴史的意味について考えさせる。
調べる	3	<b>日清・日露戦争</b> 朝鮮半島をめぐる、清とロシアと戦争したことを理解する。	◎ 祖国を植民地化された朝鮮の人々の思いについて考えさせる。
	4	<b>戦争の影響と朝鮮の併合</b> 日本のアジアへの進出とそのことへの抵抗について理解する。 <b>ノルマントン号事件</b> 日本が国際的地位を高め、国力が充実したことを理解する。	○ 年表をもとに、欧米が条約改正を容認した理由を考えさせる。

調べる	5	<b>産業の発達，暮らしの向上と公害</b> 暮らしが向上した陰で公害問題が起こったことを理解する。	◎ 足尾銅山鉍毒事件を調べ，産業発展と共に公害問題が発生したことを捉えさせる。
	6	<b>女性の地位向上と普通選挙運動</b> 参政権は認められず，女性の地位がまだ低かったことを理解する。	◎ 女性の参政権が認められなかった時代背景について考えさせる。
深める	7	<b>全国水平社の設立</b> 差別されてきた人々が，差別をなくそうと立ち上がったたくましさを理解する。 <b>差別をなくす生き方（学級活動）</b>	◎ 差別されてきた人々が水平社宣言に込めた思いを考えさせる。 ◎ 身近な差別事象を例示し，差別が起きる原因について考えさせる。
	8	差別の起こるしくみや差別する側の心理などを自分の生活や生き方に重ねて，自分なりの差別をなくす生き方について考える。	◎ 自分の中に加差別の心理がないか振り返らせ，自分も人権問題の当事者であることに気付かせる。
まとめる	9	<b>まとめる</b> 学習問題に対する答えを出す。 日清日露戦争に勝利し，不平等条約改正に成功したことで，国力がますます充実し，人々の生活は向上した。しかし，その一方で公害問題や人権問題などが起き，それを解決しようと人々が立ち上がった。	○ 産業の発達に伴い，公害や各種の人権問題などが起きてきた事実をもとに，社会の進展を多様な面からとらえられるようにする。

7時間目は，水平社宣言の「熱と光」という言葉に着目し，宣言に込められた差別されてきた人々の思いや願いに寄り添う学習を展開した。

8時間目は，子どもたちにとって，より身近な人権課題であるいじめ問題を取り上げ，簡単なアクティビティ（グループ作り）を通して自分の中にある差別しようとする心理に気付かせ，自らの生き方を考える学習を行った。

#### 子どもたちの感想

- グループに入れて少しホッとするとところやモヤモヤするところがあった。いじめがこんなに人を傷つけたりなやませたりすることを知ることができてよかった。
- 仲間はずれにされる人の気持ちが分かった。自分の行動を見直したい。
- 今日の授業で仲間はずれがどんなにいやか分かった。
- 仲間に入れなかったらこんなにきついということが分かった。

## (2) 人権感覚を育む学習づくり

人権感覚とは，人権が擁護され，実現されている状態を感知してこれを望ましいと感じたり，人権が侵害されている状態を感知してそれを許せないと感じたりするような価値志向的な感覚である。人権感覚は，言葉で説明して

身に付くものではない。そこで、本校では、参加型学習を意識したアクティビティを通して、その育成を目指している。特に、仲間づくりに焦点を当て、一人一人が集団の一員としての実感をもち、仲間と助け合い、協力する態度を育みたいと考えている。

#### ア ひまわり集会

1学期の人権週間では、1年生から6年生までの児童が学校生活で共に助け合う仲間としてつながっていくことを目的としたひまわり集会を開いている。ひまわり集会では、子ども同士のコミュニケーションを促進し、力を合わせて課題解決を行うようなアクティビティを行っている。

#### イ ひまわりタイム

毎月第4週の月曜日（8：25～8：40）にひまわりタイムを実施している。ひまわりタイムでは、子どもたちが8つの縦割り班に分かれ、いろいろなアクティビティを行う。ここでの活動もひまわり集会同様、コミュニケーションや協力を重視している。

### アクティビティの例

#### I 「人文字」

ねらい： 参加者全員が協力して、一つのことを成し遂げたときの喜びを味わう。

- 進め方：
- ① 10～20人くらいの班を作る。
  - ② それぞれの班のリーダーを呼び、お題を伝える。  
例「上から見たときに、かたかなの「オ」になるように班のみんなで形を作ってください。」
  - ③ リーダーは、班の全員にお題を伝え、全員で人文字を作る。
  - ④ 文字を判定する人に上から人文字を見てもらう。
  - ⑤ 正解なら、班のメンバーでハイタッチをしお互い称賛する。

#### II 「フラフープリレー」

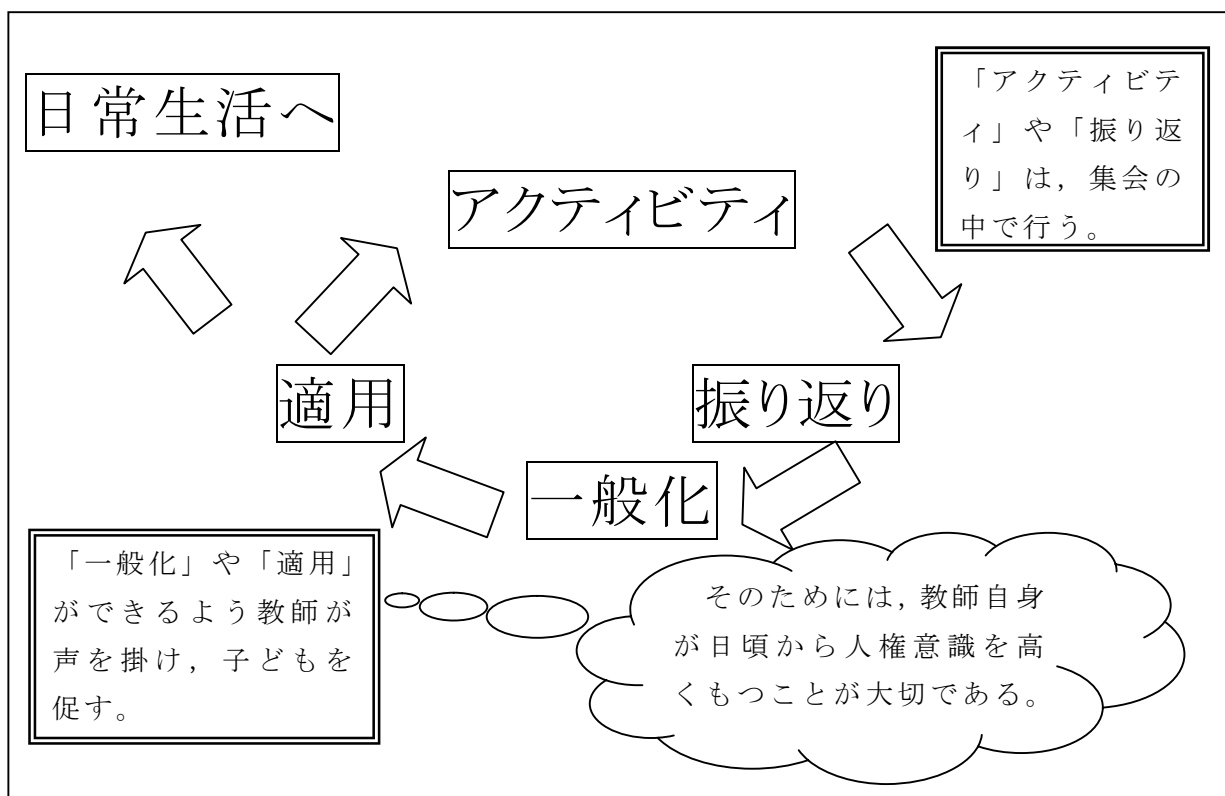
ねらい： 課題を班の友だちと一緒に解決する際、どのような言葉掛けやサポートが必要かを考える。

- 進め方：
- ① 班のみんなで手をつないで円をつくる。
  - ② フラフープをどこか1か所に入れ、それをくぐりながら回していく。(タイムを測定) その際、手を離してはいけない。
  - ③ 1回目のチャレンジのタイムより縮めるためにはどうすればよいかアイデアを出し合う。
  - ④ 2回目のチャレンジ

これらの活動の後には、「振り返り」「一般化」「適用」という学習サイクルを行うようにしている。

振り返り	レクリエーションやアクティビティを通して「どう思ったか」「何を感じたか」など振り返る。
	例・・・ 「フラフープをくぐるとき、『体を丸めると通りやすいよ』と優しく教えてもらってうれしかった。」
一般化	振り返りで感じたことを一般的な場でも言えるような形に変える。
	例・・・ 「友だちが困っているときは、優しくアドバイスすればいいんだね。」
適用	一般化された学びを日常生活でどのように生かせばよいか考える。
	例・・・ 「この前のドッジボールで、投げるのが苦手な子に『ちゃんと投げてよ』って言ったけど、今度は『ななめ上に向かって投げるといいよ』って言うてみよう。」

【参加型学習における学習サイクルの例】



(3) 環境づくり

全ての学習に言えることだが、その教育効果を上げる上で環境はとても大

切である。特に人権教育では、学習の場・雰囲気がとても大きな意味をもつ。学校全体に人権を尊重する雰囲気が満ちあふれていなければならない。ここでは、本校の環境（雰囲気）づくりについて紹介する。

#### ア 職員研修

学校の雰囲気を語る上で、職員がどれだけ仲間としてつながっているかはとても大切なことである。そこで、本校では年に5回（1回は、他研修と兼ねる）ある人権同和教育の研修のうち、1回は職員の仲間づくりも兼ねた参加型学習の基本的な流し方について研修を行っている。また、その他の4回の研修では外部講師を招聘した講演や部落問題学習の研究授業などを行っている。更に、全職員が校外研修に年に1回は出席するように努めており、出席して得た情報を職員朝会で紹介するなどして共有を図っている。

#### イ 人権尊重の視点に立った授業を進めるためのチェックシート

人権感覚を育成するためには「隠れたカリキュラム」がとても重要な役割を果たす。その意味で、子どもたちと接する教師こそ、いかなる時であっても人権を大切にす言動に努めなければならない。子どもたちが学校生活で最も多くの時間を過ごすのが授業である。その毎時間の授業での言動を振り返る意味で「人権尊重の視点に立った授業を進めるためのチェックシート」（H22「なくそう差別 築こう明るい社会」より作成）を活用している。年度初めに、全職員に配布し、学期ごとに自分の授業での言動を見直している。

## 4 おわりに

人権同和教育担当として自分に何ができるのか、何をすべきなのかを考えながらこれまで取組を進めてきた。その中で、子どもたちに変化が見られず焦ったことやねらい通りの結果にならず悩んだことも多々あった。しかし、あきらめずに取組を続けてきたことに意味があると思う。1回の授業や1回の集会で子どもが変わればこんなに楽なことはない。そうではないからこそ、これからも創意工夫しながら取組を積み重ねていかなければならない。そして、その続けていくための原動力が「自分のことも、友だちのことも大切にできる人になってほしい」という強い思いだ。この思いをいつまでももち続け、取組を進めたいと思う。

### 参考文献

『人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕』

『なくそう差別 築こう明るい社会』

鹿児島県教育委員会

『クラス全員がひとつになる学級ゲーム&アクティビティ100』

甲斐崎博史著 ナツメ社